青柳　昌宏（あおやなぎ　まさひろ/1934～1998）

日本の教育者・生物学者。東京赤坂生まれ。

東京教育大学農学部及び理学部卒業。昆虫学と動物生態学を学ぶ。和歌山市立西浜中学校、和歌山県立那賀高校、東京教育大学(筑波大学)附属盲学校、神奈川大学附属中・高等学校で、教諭、副校長、校長を歴任。

財団法人日本自然保護協会理事・事務局長、茨城県自然環境保全審議会委員、牛久市自然観察の森基本計画策定委員、環境庁自然公園指導員、日本視覚障害理科教育研究会副会長、学校法人神奈川大学評議員などを務めた。ペンギン基金初代代表。

- 都留文科大学、東京学芸大学、上智社会福祉専門学校、東海大学などで、非常勤講師として「生物学」「自然環境論」「理科教育」「自然科学概論」「ペンギン生物学」などを教えた。
- 1957年、理学部在学中に恩師下泉重吉が設立した日本生物教育学会の中心メンバーとして、学会誌『生物教育』編集長を務めるなど、40年近くにわたり運営を支えた。
- 和歌山県立那賀高校時代には、自然観察を通して自然保護教育を実践、顧問を務めた生物クラブは、日本学生科学賞において内閣総理大臣賞など、5年連続で受賞を果たした。
- 東京教育大学(筑波大学)附属盲学校では、視覚に障害のある生徒への生物の授業方法を開発し、五感を使う動植物の観察の方法論を研究・実践した。
- 自然保護教育をライフワークとし、日本自然保護協会の役員として、仲間と共に自然観察指導員養成講座を発足させた。盲学校での経験から、「ネイチュア・フィーリング～からだの不自由な人たちとの自然観察」を創始した。国際環境教育シンポジウムのコーディネーターを務めるなど環境教育に関わる様々な活動をおこない、のちに日本の環境教育を担う人材の育成に寄与した。
- 1971年、中等教育までの教員として初めて、第13次南極地域観測隊員に選ばれ、昭和基地周辺のアデリーペンギンの生態調査をおこなった。1978年、ニュージーランド南極地域観測隊 カンタベリー大学第17次ケープバード調査隊に参加、ロス島ケープバードでアデリーペンギンの生態調査、実験をし、雛が親の声を記憶していることを実証した。これは、アデリーペンギンの音声コミュニケーションにおいて画期的な研究であった。
- 南極地域及び南アフリカ、チリ、ニュージーランド、オーストラリアなどのペンギンの生息地への訪問の中でペンギン保護の必要性を認識し、1986年、世界のペンギンの保護団体及び研究者の支援をするNGO、ペンギン基金を設立。1997年と1998年にはガラパゴスを訪れ、エルニーニョ発生初期におけるガラパゴスペンギンの動態調査をおこなった。
- 1998年、環境庁自然系環境学習推進方策検討委員に就任。同年10月18日、逝去(享年63歳)。3か月後には、ペンギン会議関東地区フィルムセミナーで「アデリーペンギンのボーカルコミュニケーション」、葛西臨海水族園で「進化の島にすむガラパゴスペンギン」と題する講演をおこなう予定であった。

【参考】青柳昌宏先生業績編纂会編『青柳昌宏業績目録』1999年/板倉聖宣監修 日外アソシエーツ刊『事典 日本の科学者:科学技術を築いた5000人』2014年/内田啓子「青柳昌宏資料に関する2つの展示事例―知られざる研究者資料の保存の可能性を求めて」『科学史研究』64(314)(2025)/「自然観察と自然保護教育―青柳昌宏の教育理念の背景を探る」『生物学史研究』105(2025)/青柳昌宏資料等